

がん患者・造血幹細胞移植患者に対するワクチン接種の考え方と肺炎球菌ワクチン 接種率向上の取り組み

冲中 敬二

がん患者や造血幹細胞移植患者における感染症において、呼吸器感染症は大きな割合を占める。特に肺炎球菌感染症は若年がん患者でも罹患率が高く、そのリスクも長期間持続することが知られている。このため国内外で肺炎球菌ワクチンによる予防が推奨されているが、日本国内での接種率は低い。医療従事者（特に腫瘍医）の推奨が接種率向上において重要だが、ワクチン推奨に関して「思いつかなかった」という医師が多く、患者からの希望や質問を契機に推奨した医師も多かった。現在東病院では院内講習会やセミナーを通じ医療従事者への知識の提供とともに、患者向けパンフレットやホームページの制作も行っている。